# マレーシアでは法制化によってシートベルトの着用率が高くなっています。　ハニファ・M・モハメッド

# In Malaysia, the Rate of Seat-belt User is Raised by the Establishment of Legislation

*Haniffah M. Mohamed*

**森田**　ハニファさんはとても美しい日本語を話されますが、日本で生活されて今年で何年になりますか。

**ハニファ**　11年ぐらいになります。

**森田**　お国のマレーシアは近代化が進む中で、急速にモータリゼーションが進行しているようですが、モータリゼーションに関してはすでに様々な問題を抱えている日本の交通事情について、印象的なことは何でしょうか。

**ハニファ**　私は主に東京しか知らないのですが、とにかく車の数は多いですね。そしてそれに伴なう排気ガスと騒音の問題。トランスポーテーションが発達した結果、大変に便利になっているとは思うのですけれど。

**森田**　公害に関してはすでに強い規制がされていて、データとしては改善されているとも言われるのですが、とにかく総量が多いものですから……。

**ハニファ**　私は渋谷区の大橋、国道246号に面したところに住んでいて、騒音にも排気ガスにも大変に悩まされた経験があるんです。子供の頃にかかった小児喘息の発作が、そこに住んで2年目で再発してしまって、結局は転居したほどです。もしかしたら、そういう人は少なくないのではないでしょうか。

初来日は今から11年前。東京外語大に4年間在学ののち、母国のマラヤ大学で約1年、日本語を教える。現在は東京外語大マレーシア語の講師、NHK海外向けラジオのアナとして活躍中。

**森田**　大変でしたね。それで喘息の方、今は？

**ハニファ**　おかげさまで、もう大丈夫です。

**森田**　私、マレーシアについてはクアラルンプールしか知らないのですが、あの街の周辺には大変に素晴らしい道路ができていますね。

**ハニファ**　ええ。マレーシアは日本と違って鉄道がないですから交通の手段は車に頼ることになります。ですから立派な道路はたくさんありますけど、しかし道は非常に混んでいます。一つには、道路が一定の地域に集中してしまって、ネットワークとしてあまりよく機能しないのも原因だと思います。

**森田**　マレーシアで私が気づいたことの一つは、信号が少ないことなんです。交差点の流れをロータリーのような形で処理しているところが多いですね。

**ハニファ**　そうですね。しかしそれも信号に変えるようにしています。なかなか思うように進まないようですが。

**森田**　日本と異なることの一つに、車の種類によって最高速度が決められていることもありますね。トラックは50キロ、小型トラックは70キロ、乗用車は無制限といった具合に。

**ハニファ**　一応そうなんですが、守られていないですね。

**森田**　速度制限については道路による制限もあるのですか。

**ハニファ**　あります。最高速度60キロの道路であるとか80キロの道路であるとか……。しかしこれもあまり守られているとは思えません。それから、たとえば停車してはいけないはずの高速道路にバスが停車してしまうという困った問題もあります。ミニバスと呼ぶ、どこでも止まってくれる便利な乗り物なんですが、高速道路で、バ

インタビュアー

# 森田 孝

当学会誌編集委員長。大阪大学人間科学部教授。専門は教育哲学、人間形成論。最近は言語と人間形成、人間形成の思想史、人間の生涯と発達などの研究に取り組む。

スストップでもないのに勝手に止まってしまう。これは危険です。あげくに高速道路を牛が歩いていたり……。

**森田**　牛に交通安全教育は難しいですね（笑い）。

**ハニファ**　本当ですね。でもミニバスにしても、あるいは牛の飼主がするべき管理にしても、法律をもっと整備すべきだと思うのです。

**森田**　日本ではモータリゼーションが進んだ1970年に、交通事故による死者が年間１万５千人を超えてしまうという状態がありまして、その問題に国中が一丸となって取り組んだ結果、10年もたたぬうちに死者の数を約半数にまで減らすことができたという経過があります。最近ではまた少しずつ増加してしまって１万人に近づこうとしていますが、マレーシアでは交通事故の状況はいかがですか。

**ハニファ**　大変問題になっています。道が少ないのに皆が急いでますから、やはりスピードの出し過ぎに起因する事故が多いようです。また今までは大変にボロボロな車が走ってましたから、ちょっとしたことでも被害が大きくなったのかしれません。日本では車検制度の厳しさもあって比較的新しい車が走っていますね。マレーシアには車検という制度もないので、本当に色々な状態の車が走っています。

**森田**　しかし古いものを大事に使うというのは大切なことではないですか。

**ハニファ**　たしかにそうですが、使い捨て文化にも良い面はあると思います。新しい物をどんどん使うことによって進歩が速まるといいますか……。

**森田**　ですがそれが公害問題等にもつながるわけです。これは近代化に関わる難しい問題ですね。ところでマレーシアでのシートベルトの着用の状況はいかがですか。

**ハニファ**　すでに法制化されていて、私が前に帰った時、違反すると50マレーシア・ドル（約五千円）という罰金でした。罰金は今はもっと高額になっているという話も聞きますし、ベルトの着用率は高くなっているようです。

**森田**　現在のマレーシアは、モータリゼーションの進行、高速道路他道路網の充実に伴って、交通ルールを徹底しつつあるという段階にあるわけですね。

**ハニファ**　そうだと思います。

**森田**　ところで若者とオートバイをめぐる問題はありませんか。

**ハニファ**　少しはあるようですが、まだ大きな問題にまではなっていません。と申しますのは、マレーシアではオートバイがまだ高価な自動車に代る生活必需品として、毎日の生活に欠くことができない存在だからです。

**森田**　クアラルンプールの道路には専用レーンがあって、オートバイはたしかに優遇されていますね。

**ハニファ**　そうです。生活必需品であるというオートバイに対する意識と、まだまだ混んでいる道路を考えると、暴走族が問題化してくるという状況ではないようです。

**森田**　私はこの１月と５月に初めてマレーシアを訪れたのですが、それは結局自分を発見する旅だったように思います。西欧化しているように見える日本が、一皮めくるとたしかに東洋なんだと実感しました。マレーシアの若い世代が参加する今回のIATSSフォーラムでも、私達はいろいろなことに気づくことができるはずです。

**ハニファ**　マレーシアが日本から学ぶべき大事なことの一つは、日本が近代化の過程で経験した様々の問題の中から、自分達の近代化の方法を学ぶことだと思うんです。

**森田**　そう思います。本日はどうもありがとうございました。

インタビュー後記

（今回のインタビューでは、IATSSが今年の秋から3ケ月のプロジェクトで行う国際事業であるマレーシアから参加者を招いてのフォーラムに対し、いくつかの貴重なアドバイスをもいただいた。その中で「日本がマレーシアに学ぶことがはたしてどれだけあるだろうか」と疑問を呈するハニファさんが、「日本の近代化の過程にあった問題を見つめた上で、マレーシアは自らの近代化を考えるべきだ」と発言されたのが大変に印象的だった。（昭和60年7月8日実施））